年間第3週日曜日・ A年16. 闇を照らす 光

年間第3週日曜日・A年16. 闇を照らす光一イエスは、 闇に覆われた世界に光をりる い信者は「世の光」で専門職における模範。専門 事の現実を聖化する との教義的な形成と内的 活。 年間第3週日曜日·A年

16. 闇を照らす光

- イエスは、闇に覆われた世界に光をもたらされた。
- 私たちキリスト信者は「世の光」である。専門職における模範。専門的な競争。
- 一 よい模範の効果。地上の現実を聖 化するための教義的な形成と内的生 活。
- 16. 1 イエスは闇に覆われた世界 に光をもたらす。信仰は私たちの全 生涯を照らす

「主はわたしの光、わたしの救い、わたしは誰を恐れよう」」。答唱詩編のこの言葉は、信仰告白であり、生命の光である主への信仰を確信していることの表明です。日々私たちの道をしっかり歩むのに必要な力を

見出すのはキリストにおいてです。 ミサの間に唱える使徒信条では、神 の御子を光よりの光と言っていま す。

人類は、イエスがベツレヘムで生ま れ、光が地上に放たれるまで、暗闇 の中を歩きました。この数週間以 上、私たちはキリストの輝きが、ど のようにマリアとヨセフを、そして 羊飼いや博士たちを照らしたか考え てきました。輝かしい暁の星²であ るイエスは、何年もの間ナザレの小 さな村で隠れて過ごされ、田舎の 人々と同じ平凡な生活をされます。 事実上、イエスは、私たちに示され たナザレでの年月、聖化されうる、 また、聖化すべき普通の隠れた生活 をとおして、人々の生活に光を与え 続けます。そして、ナザレを去って ヨルダン川で洗礼を受けた後、イエ スは公生活を始めるためにカファル ナウムに行かれました³。

今日の福音で聖マタイは、メシアが 全世界に光を与えるというイザヤの 預言を思い出させます。「暗闇にと 、大いなる光を見、死に住む 、大いなる光を見、だ」、死 、大に住む者に光が射し込んだ」、ス 、大は、大は、大は、 、大に真理の輝きをもたらされます。 をもたらされます。

ました。そして、一生を貫く道がイエスの照らしによって輝くように、すぐに従いました。しかし、イエスのこの光は、すべての人々のために輝きます。 イエスは、暗闇を追い払い、私たちの生活と日々の仕事、疲労、悲しみ、喜びに意味をお与えになります。

福音書が人々に示すイエスの生涯 は、(思いがけない)出会い物語の ようです。私たちも暗闇の中にいま すが、光は今にも(闇を)突き抜け ようとしています⁶。 今日もまたミ サの第1朗読でイザヤの預言が成就 することを耳にします。「闇の中を 歩く民は、大いなる光を見、死の陰 の地に住む者の上に、光が輝いた。 あなたは深い喜びと大きな楽しみを お与えになり、人々はみ前に喜び 祝った。刈り入れの時を祝うよう に、戦利品を分け合って楽しむよう にしっこそれは、信仰から来る喜び であり、行いのすべてに光を与えま

す。私たちに起きてくるすべてのことと、私たちがするすべてのことに意味を与えるのは、イエスの驚異です。

16. 2 キリスト者として私たちは 世の光である。専門的能力

世の光であるイエス・キリスト⁸ は、最初にガリラヤから数人の素朴 な男たちをお呼びになりました。イ エスは彼らの生活に新しい光を注が れ、ご自分の目的である宣教に協力 するよう招かれ、無条件に自らを献 身するように頼まれました。ガリラ ヤのこの漁師たちは、単調な夢のな い生活、あまり光の当たらない所か ら現れ、主に従いました。そして他 の弟子たちは、同じように彼らの後 に続くことになりました。その時か ら、男も女も何世紀もイエスに従い 続けています。彼らは自らの命を、 イエスに捧げると言えるほどまで主

に従いました。私たちもまたイエス に従うのです。

主は今、私たちがみ跡に従って、信 仰の光で人々の生活と今の貴い活動 を照らすように呼んでおられます。 人類を苦しめる多くの悪に対抗する 手段は、私たちの主であり先生であ るイエス・キリストであることをよ く知っています。キリストなしで は、人類は暗闇を歩くことになり、 つまずき倒れます。他の人々に伝え なければならない信仰は、知性に 光、それも他と比較にならない光を 伝えます。「信仰のないところは、 暗闇です。それは超自然的真理を前 にした自然の暗闇であり、罪の結果 である自然以下の暗闇なのです |

私たちの言葉は、すでに私たちが 行っている様子を見ている友人の心 に定着するでしょう。つまり、時間 どおりに仕事を始めること、勉強す

る時も働く時も時間を有効に使うこ と、困難に行き詰まっているとき落 ち着きを失わない不屈の精神を示す こと、小さなことで仲間を助けるこ と、キリスト者に相応しい人間徳を 実行すること、楽観主義、思いや り、快活さ、会社や友人たちに対す る誠実さ、非難や意地悪な噂話に絶 対に耳を貸さないことです。キリス ト者が、仕事で有能であるように努 力しないなら、自分の信仰生活に一 致していないということでしょう。 同僚たちとの関係や、他の人々や社 会に対する態度が不公平であるな ら、なおさら信仰に一致しないこと になるでしょう。

自分の周囲に信仰の光をとり入れられるように、教会の教導職の教えを知り、特別の専門の仕事に影響を与える最も重要な事柄について良い形成を受ける必要があります。まさに人間の尊厳と合法的な自由そのもの、また、それを育てる社会的秩序

を築こうとするなら、この形成が必 要です。キリストの教理を実行に移 すことは、良いキリスト者でありた いと願う者の生活にとっては特に重 要です。私たちが周囲にもたらそう とする寛大さと公正さ、物事を行う やり方が、同僚たちの普段の振舞い や単なる利己主義とは相容れないこ とがあります。主は弟子たち一人ひ とりが真理に真に忠実であることに おいて不屈の精神と勇気を示すよう お望みになります。なぜなら、この ようにしてイエスは、多くの人が自 分の固有の振舞い、そしてそれが自 分の生活に与える意味を考え直すの に役立つからです。聖パウロが、コ リントのキリスト者に警告したこと を思い出すことは良いことです。 「わたしたちは、十字架につけられ たキリストを宣べ伝えています。す なわち、ユダヤ人にはつまずかせる もの、異邦人には愚かなものですし ¹⁰。キリストのメッセージは、常に 過度な物質主義のために病に陥って

いる社会の見解と衝突するでしょう。なぜなら、その社会では、人々の人生への態度はなれあいや安楽な幸福を求めるものだからです。

「主を待ち望め、雄々しくあれ、心を強くせよ」 11。今日、私たちが日頃生活する環境の中で、首尾一貫した生き方、聖霊が与える勇気によって示す仕事の模範、学生なら勉強、人間的、超自然的徳の実行、また、物的、霊的にも慈しみの業の実行によった。

16.3 教理上の形成と内的生活は、この世の現実を聖化するために必要である

主は、私たち一人ひとりを世の光にするためにお招きになりました 12 。そして、その光は隠れたままにしておいてはなりません。私たちは真理の光で照らされたランプです 13 。キリストの教えについての知識は、教

育のレベル、年齢、若者に対する責 任のレベル、生活している環境や社 会に応じたものです。もし、他の 人々にこの知識を教えようとするな ら、もし、その知識を自分自身の生 活を導く光にしようとするなら、こ の教理についての深い知識を獲得す るために努力しなければなりませ ん。特別な仕事に関する正義の義務 と、正義の要求をはるかに超える愛 徳の義務について深い知識を持つべ きです。私たちは実行する機会があ る善があることに絶えず気がつくべ きですし、その善を実際に行うべき です。同様に、私たちはある振舞い が原因で悪を行うことがあることを 認め、それを避けるべきです。良い 市民でもあるキリスト者として、責 任を持って実行することができるよ うに、時折、助言を願う必要がある ことを認めなければなりません。家 族、什事、勉強に対して、忠実で責 任ある態度をとらなければなりませ h.

主は、教会に信仰の宝を備えられま した。ちょうど船が灯台によって進 路を定めるように、私たちは、教会 の権威によって方向を定めるべきで す。そして、まさに人間の救いと尊 厳にかかわる多くの問題解決のため に、光とガイドを見出すために、教 会の権威を大切にします。一般的な 社会の枠組みの中で生きるキリスト 者として、私たちは仕事の中で、仕 事をとおして自分を聖化しなければ なりません。職業的倫理の主要な事 柄を十分に掴み取って、それを自分 の仕事に当てはめる必要がありま す。たとえその基準を実行しなけれ ばならない時に、それが厳しく困難 であることに気がつくとしても、そ の必要があります。

「あなたには内的生活と教理教育と が必要である。もっと自分に厳しく なりなさい。キリスト者であるあな たは、地の塩・世の光でなければな らない。あなたは聖なる恥知らずと

なって、模範を示す義務があるのだ から。キリストの愛を考えれば、一 刻の猶予も認められない。主に従う と言って以来、もう一人のキリスト である自分を感じ、それが理解でき たのだから、あなたの親類縁者や友 人、什事仲間などから離れて生活す ることはできないのである。塩が自 分で味をつけた食物から離れないの と同じである。あなたの内的生活と 教理的形成には、神の子の持つべき 信心とその規準が含まれている。自 分の存在と活動によってすべてに味 をつけるためである。あなたがいつ も人々の生活に良い味を与えること のできるよう、主に助けを願いなさ [\] 14°

私たちは聖母に心を向けます。最初のキリスト者のように、この世の真っ只中で、世間的な生き方をしないで過ごし、専門とする仕事と自分が置かれた環境の中でキリストの光

になるために、剛毅と単純さを聖母 に願いましょう。

- ¹ 詩編27・1
- 2 黙示録22・16
- 3 聖ヨハネ・パウロ二世 説教 1981 年1月25日
- ⁴ マタイ4・16,イザヤ9・1-4 参照
- 5 聖ヨハネ・パウロ二世, 同上
- ⁶ A.G.Dorronsoro, Notes on the Virtue of Hope, Madrid, 1974 参照
- 7 イザヤ9・1-2
- ⁸ ヨハネ8・12
- ⁹ 聖ホセマリア・エスクリバー 手紙 1967年3月19日
- ¹⁰ ーコリント1・23

- 11 詩編 27・14
- 12 マタイ5・14
- ¹³ 聖アウグスチヌス,Commentary on St John's Gospel, 23,3
- ___ 聖ホセマリア・エスクリバー 『鍛』 4 5 0

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/TO-III-nichi-A/ (2025/11/30)